

## デイヴィド・ウィルコックの語る陰謀団の没落

Greatchain

2019/03/19

David Wilcock talking about the fall of Cabal という、(このところほとんど毎日話している) ウィルコックが猛スピードで語る、1時間8分の講義ユーチューブの冒頭を、ほんの4分の1だけ翻訳紹介してみた。ウィルコックについて誰もが驚くのは、その恐るべき博識強記(この言葉は彼のためにある)と、そのすべてを有機的に連結させる能力である。そして何よりもその使命感に驚く。彼は究極的に、知識でなく、どう生きたらよいか、生きる知恵を教えている。間違いなく彼は、この我々の時代のために、誰にもできないことを果たすために、使命をもって生まれてきた。このわずかの時間に語るだけでも、どれだけ多くのことに目を開かれ、どれだけ多くのことが繋がったか知れない。彼の特異能力には、夢による霊的な通知があり、地上の人々も彼に協力をするように動いている。しかし彼は預言者ではなく、そこに重点はおかれていない。(デイヴィド・アイクのように、彼の夢を難点のように言うべきではない。)とはいえ、彼を神格化したり、盲信したりするつもりは私になく、それは却って彼を貶めることになると思う。

---

私が陰謀団 (Cabal) を語るというとき、それはどういう意味か? 世界の多くの人々が知っている名前には、ビルダーバーグ会議、日米欧三極委員会、外交問題評議会 (CFR)、New World Order、イルミナティなどがある。ここで言っているものの正体は何か? 究極的にはそれは、組織化された犯罪のことだ。それは、疑似政府レベルで機能する犯罪シンジケートのことだ。なぜなら、彼らは、自分たちの高位者たちによって経営しているのではない。現実には、そういう人たちはいない。何かを事務所として経営している人々は、これらの企業体内部の中間層以上の者であることはない。

私たちは、多数のインサイダーや警告者を、そういう所に配置し、そのある人々と私は、直接、話し合っているが、彼らは、アメリカ大統領が、陰謀団のある高位者の前で、子供のように泣きだす所を目撃したと言っている。それは大統領が彼らに怯えたからだ。この陰謀団はその心の底で、信じられないかもしれないが、ルシファー信仰をもっている。あなたはきっと言うだろう——いったいこの世の中に、ルシファーの周りに宗教を築こうと思う者がいるだろうか、と。それはとても巧妙にできているのだ。まず、その人は古代密儀の信仰をもっている。そしてこの古代密儀の教義は、アトランティスという伝説的な文明にまで遡る。

これは現実に存在していた。我々は今、それらの廃墟や、例えば、少なくとも1万3,000年前のトルコの廃墟を知っている。なぜなら、我々は炭素によって、これらのストーン・サークルから掘り出された汚物の年代を測定している。そして、それらが1万3,000年前からそこに埋まっていたことがわかっている。我々はもはやそれを否定できない。

実は、この地上に我々が普通知っているどんな文明より古い、古代の石造記念物がある。そして問題は、誰かわからない、これらピラミッドを建造した人々が、この文明全体の主だったこと、完全に自前でそれを建造する技術を持っていたことだ。そこには徐々に進歩したという形跡は見えない。我々は陶器の破片などを探し、そこに達するのに、何千年の必要な文明の段階を経なければならないか、この高度の技術に達するのにどれくらいかかったかを、調べようとしている。誰もこれまで、ピラミッドのような建造物を建てた者はいない。今日の技術によって、このような大きな石のブロックを使って、このようなものを建てた者はなく、世界で最も大きなクレーンでもそれはできなかった。日本のチームが5分の1の尺度で試みたが、完全に失敗した。彼らは、大きなピラミッドのレプリカを、5分の1のサイズで試しても不可能だった。それで誰かが高度な技術を持っていたのだが、そこに含まれる意味は、この技術は地球のものではなく、ある逃亡者集団、あるいは多数の逃亡者集団が、現実に地球へ、おそらく何らかの宇宙の戦争で敗れて、やってきたのではなからうか、ということである。そして実はこれが、秘密の、ルシファーのオカルト物語、墮ちた天使ルシファーの物語ではないだろうか？

そして実は、ある秘密の本があり、それは聖書からは除かれ、「エノク書」と呼ばれている。そして「エノク書」で耳にするのは、エジプトの食人種の話である。なぜなら、これらの人々の一部は、洪水後も生き残ったからである。その後、ローマ人が、アレクサンドリアの図書館を略奪して焼いたが、焼く前に彼らは、良いものをすべて取り出し、それをバチカンの図書館に移管した。そこで私は、あるインサイダーたちをお願いして、現実に一緒に座り、彼らにはバチカン図書館へ入ってもらい、説明してもらった。そして異星人の文明がまだここへ来る前に作った本を読んでもらった。これらの本には、星と星の間の宇宙船や、巨大な母船の、高度に技術的な図形が含まれている。そしてこれらの本は恐ろしく古いものだ。これらのあるものは、非常につやのある mylan type のページを使っている。またあるものは、現実にホログラフィックだ。その本を開くと、あるイメージが浮かび上がり、あなたがあなたの意識と相互活動していることをそれは示し、あなたが何を聞きたいかを言ってくれ、あなたが知りたいどんなことでも言ってくれる。それで今、人々が理解しなければならないのは、これらの文書の収納庫はバチカンにあるということ、したがって、知る必要があるというレベルの人もいれば、現実にその知識にアクセスできる人もいるということである。

彼ら陰謀団は、自分が、ここへやってきた、そして長い頭蓋骨をもつ、ある地球外人種 (ET)

の子孫だと理解している。このような人種の像は、アクヘナテンのようなエジプトのファラオとか、ネフェルチチとか、娘のメリターテンのような人に、見ることができる。そしてここにあげたのは、この特別に細長い頭蓋骨で、Brian Forresterのような科学者はペルーにおいて、実際に、この細長い頭蓋をもつ頭蓋骨の新しい例を発見しつつある。そして、これら通常の人間の頭蓋骨は2つの割れ目をもっているが、こちらは1つだけであり、彼らはあらゆる変則的特徴をもっていて、我々はこの神経集網がこの顎から出ているが、彼らは頭の後ろにもっている。これらは(人工的)頭蓋変形とは何の関係もないようであり、従ってポイントは、細長い頭蓋骨は世界中に現れ、南アフリカのバスコップマンから、シベリアにも見られ、発掘されたフランスの王族の墓からも長頭の頭蓋骨が出てきた。その他、北米南米、文字通り世界中から出ている。したがって、我々の現実に論じていること、また私の本『アセンション・ミステリー』の後半全体で、250頁にわたって書いていることは、50万年のこれらの人々の歴史の、包括的な図像である。彼らはどこから始まったか、どのようにこの地上にやってきたか、どのように彼らは陰謀団に変わっていったか？そこで、確かにそれは文字通り奇妙に響くけれども、血のつながった細長の頭蓋骨の人種がいて、そのある者はその頭蓋骨を失ったが、他の者はまだ残っていて、もし残しているなら、その者たちこそ、あのバチカンで見る細長い僧帽(mitre)をかぶった者たちだただろう。彼らは決してその帽子を脱がないので、誰かが帽子の下で、細長い頭をしていたかどうか、わからなかったのだ。

それは確かに奇妙な話に聞こえるが、今、あるグループの人にこっそり言えるようになったと想像してみたい。「彼らこそ、あの神々とされた異星人たちの子孫なのだ。彼らはIQの点数が、地球上の誰よりも数10点も高く、そして世界中に広がって行って、あらゆる所で勢力をもつ、支配階級カーストになったのだ。彼らは高度に発達した技術をもっていて、初めてここへやってきたとき、それによって地球を回ることができ、ピラミッドを建造し、込み入った建造物をつくることができた。すべてのピラミッドが、ネガティブな者たちの建造したものただただでなく、現在もそうなのだが、彼らはこの地球上に広く、効果的な支配権を打ち建てたのだ。」

しかし彼らは、我々が Elohim (ヘブライ人の神) と呼ぶものによって、敗北させられた。これらは聖書や他の文書に現れる、ポジティブな地球外の存在だ。エロヒムは大きな災害を繰り返し起こさせた。ソドムやゴモラはその一例だ。火や硫黄が天から降ってきた。こうしたことは神話ではない。この地球が定期的に、大災害に見舞われたことがわかっている。これら大災害のあるものは明らかに権威をもたされたが、それは、これらの人々が、我々の惑星を支配する能力を劇的に縮小させるためだった。しかしそれでも、この地球に残った残党がいた。彼らは非常に進歩しており、仲間内で結束力が強く、このことから選民意識が始まった。彼らは選ばれた者たち、能力を与えられた特別の人間だった。

そこで何が起こったか？ ある宗教的なグループが、バチカンの文化から聖像学（iconography）を取り込み、そこにはエジプトのイシス、オシリス、ホルスという三位一体が含まれ、ケルトの神話も含まれ、アジアの神話も、ヒンドゥの神話もすべて取り込んで、そのすべての精髓を抽出する。そしてそこへキリスト教がやってくるとしたらどうか？ そしてこの教師イエスがやってきて言う、「これはやめなければならない。」彼は両替商の書字板をめくっている。彼は本質的に契約を書き換えている。それから、この出来事の余波として、社会が組織されて立ち上がり、そこでは、これら古代の密儀のすべてが悪だと言われる。これら古代密儀については、彼らは選ばれた者で、したがって、教会の諸習慣が科学を抑圧し、性的自由を抑圧し、独立した思想を抑圧して、順応するかそれとも死ぬかを要求し、こうした非常に厳しい異端尋問をつくり出して、人々が拷問され、告白を強要されたとき、**彼らは教会そのものが、したがってイエスが実は悪で彼らは善だと信じた。**そこで彼らがやったことは、聖書の中に入っていく、こう言うことだった、「なるほど、それなら誰が善玉か？ それはルシファーではないか、光の神ではないか、知恵と真理の神ではないか？ なぜルシファーが天から投げ落とされたのだ？ それは彼が反逆したからだが、反逆の理由は、そのすべてが出来レースで、すべて八百長で、すべて悪であることを彼が見抜いたからではないか。」

そこで彼らは信じているのだ。これは彼らが理解していることなのだ。これをあなたが信ずるか否かは関係がない。これは彼らの宗教なのだ。彼らはこれを現実に信じている。私はこのことについて、いろんな異なった情報を与えてくれた、沢山の人々と話し合った。それは直接のインサイダー情報源であり、あるいは彼ら自身が信じている場合もあるが、これらの人々は、自分たちは神々の子孫だと正直に信じている。自分たちは選ばれた者で、神の特別の人間であり、我々は錯覚しているのだ、本当の創造者はこの知恵の原理であり、彼らがルシファーと考えている者なのだ。そして、この知恵が彼らに古代秘儀の教えを与え、彼らがアドナイ Adonai と呼ぶ敵、我々がキリスト教の神と呼ぶ敵は、彼らを打ち負かそうとしてやってきたのだ。

そこで彼らは、聖書のようなテキストさえ持ち出し、それが終末にどう言っているかを示す。神は、邪悪な者からカネを取り上げて、正しき者にそれを返す、と言っている。我々は一つの惑星として邪悪な者で、彼らは正しい。だから、これが彼らの金融の腐敗を正当化する方法だ。彼らは、我々がお金を手にする資格があるとは思っていない。実際彼らは、もし彼らが我々を支配せず、我々を統制もせず、これらのゲームをやって、我々のやるままに放置しておいたら、我々は自分の惑星を破壊してしまうだろうと信じている。だから、あるねじ曲がった理屈によって、彼らは地球を救っていると信じている。彼らは、人間どもは環境に悪く、汚染を引き起こしている、だから彼らは人口を減らさなければならない、と考えている。

彼らは『マトリックス』や『エイジェント・スミス』のような映画を見ていて、そこでエイジェント・スミスは、我々はこの惑星上のウィルスのようなものだと言っている。これは、我々を悪者だとする彼らの教えをはめこむ、いろんな方法の一つにすぎない。『バットマン・ビギンズ』シリーズの最新のを見ていただきたい。そのバットマン映画の最初のもので、陰謀団の計画である人口削減を唱えるのは、なんと我々悪者で、なぜそれが必要なのかを説明している。そこで2番目のを見てほしい。そこには、ヒース・レジャーが出てきてジョーカーを演じているが、ジョーカーの言うことに関するあらゆることが、全面的に彼らの信じていることだ。彼らが、これらのフェイク・テロ攻撃をつくり出し、そこで大勢の人を殺すのは、悲しいことだが必要悪なのだ。彼らがそれをやらねばならないのは、我々をコントロールするため、我々が惑星全体を破壊することを防ぐためなのだ、と彼らは言う。

ここには、こういうことを固く信じている高レベルの人々がいる。そして我々にカネのかかってくるワクチンについては、それには現実に補因子 (cofactor) が挿入され、それが時間をかけて、他の補因子をもつ補因子と結合し、人口の減少を実現しようとしている。そこでこれは非常に深刻な問題なのだが、このことをよく知っているのはインターネット社会だけではない。それはまた別の問題で、私はそれをここで指摘したいと思う。それは地球の政府の最も高いレベルで、非常に強力な、高レベルの内部造反があった問題である。それは1700年から続いており、ロシアで始まったものだ。ロシアは実は、陰謀団に対して「同盟」Alliance が立ち上がった所だ。そしてその同盟は、完了するには長い、長い年月を要する諸計画に、ずっと取り組んでいる。

この陰謀団の人々は、フリーメーソンのような秘密結社を利用してきた。そこでは彼らは、複雑な儀式を通じて秘密を守らねばならず、その教団に志願する人物は、秘密を守るにはどうするか、秘密の握手や、秘密の合言葉、秘密の暗号を学ばねばならない。それによって可能になるのは、人を入会させることのできる、団体をつくることである。なぜなら、こういう人々を通じて新会員を募るときは、彼らは今、血盟を結んでおり、彼らがこの教団の秘密を漏らすだけでも、彼らは殺される。そして人がフリーメーソン教団の第7階級に昇進したときには、それは Royal Arch と呼ばれ、彼は宣誓して、仲間のメーソンに危険があった場合には、全力を尽くして彼を救わねばならない。たとえ殺人を犯してでも、彼の祖国を裏切ってもそれは守らねばならない。それでこれは完全になった。なぜなら、あなたが例えば30階級に昇進すると、Light on Masonry という本があった。これは1800年代後半に出版され、こうした問題がすべて表に出たのは現実には、1800年代半ばであり、この本には、人々がメーソン教団33階級に至るすべての段階で聞くことが書かれていた。あなたが30および31階級に達すると、彼らの組織の目標は、宗教の蛇の頭を潰すことだと言われる。

ところで、確かに、組織化された宗教は多くの問題を引き起こしているが、彼らが本当に意味するのは、すべての宗教を排除せよということではなく、彼らはそのように望むが、彼らの宗教が地上に存在していればよく、もしあなたが彼らの宗教を許さなければ、あなたは殺されるということである。

それで彼らは何をしてきたかという、それは我々に自分の宗教を与えるということ、我々にそれを示して見せることで、例えば、最近のオリンピックの開会式と閉会式は、陰謀団のシンボリズムが満載されていた。彼らはそれをグラミー賞でもやり、スーパーボウルのハーフタイム・ショーでもやっている。彼らはそれを音楽でも、ビデオの音楽でも、ビデオゲームでも、トークショーでも行って、我々にルシファーのシンボリズムを見せている。彼らの目的は何かと言えば、この宗教が、案外クールで、トレンドイではないかと、魅力を感じてもらいたいからである。そこで、彼らのやることの一つは、666のシンボリズムを指でやって見せたり、指を目に当てて all-seeing eye の恰好をしたりすることである。そして人々がこういうことに自然に慣れて、家庭でもどこでもやるようになることを狙っている。

彼らの目的はここでも、我々に彼らの宗教をなじませておき、彼らが自分の目的を実現して、巨大な世界の経済的崩壊をつくり出して、人口を大きく減らし、次には、我々の解放者として出ていき、我々にこの技術を与え、彼らが自由と考えるものを我々に与えるならば、我々は現実に、自分の主権を、もっと大きなレベルの暴政と交換するだろう、ということである。ありがたいことに、ロシア人のような人々が——私が言ったように 1700 年代から——この計画があることを知っていた。そして彼らはそれを食い止めようと活発に動いていた。その努力は今、非常に組織化され、膨大なものになっているので、陰謀団がここを通り抜ける見込みはない。彼らは彼らの目標を実現はできない。彼らは敗退させられており、私は念入りにそれを、私のショー Wisdom Teaching や Gaia で跡付けてきた。

——第 1 部ここまで